

(英語版)

(アラビア語版)

令和五年四月

SF小説…「ナクバの東」(八十二)

エピソード(1)

八十二 アブラハムの兄弟

ドクタージルゴはキメラがパレスチナ人だけに感染すると確信していたが、キメラが最凶であることを見逃していた。キメラはさらに変異してアラブ人からユダヤ人に伝染するようになったのであった。

なぜアラブ人からユダヤ人に伝染したのか？

答えは簡単である。アラブ人とユダヤ人はともにアブラハムを始祖として血が繋がっており、DNAの構造が極めて似ている。アラブ人とユダヤ人は「アブラハムの兄弟」である。だからキメラは変異してユダヤ人にも伝染したのである。

しかし不思議なことにユダヤ人の中には感染しない者がいた。『マファイア』一族のような東欧から移住した者たちである。彼らはソ連崩壊時にイスラエル政府の呼びかけに応じて移住した。イスラエル政府はその時一つの移住条件を示した。母親かその先祖がユダヤ人であることを条件とした。しかし条件の審査は厳格なものではなく、移住希望者が提出した出自を証明する資料があれば移住が容易に認められた。そのため移住希望者の中には証明書を金銭で入手する者もいた。

彼らは血統的にはモンゴル系アジア人であり、遺伝子的にユダヤ人ではなかった。彼らはキ



メラに感染することもない。このまま事態が進めばいずれイスラエルは非ユダヤのミズラフイムで占められてしまうことになる。

ただそれも時が経つにつれキメラはパレスチナ人、ユダヤ人に限らず地球上のすべてのヒトに感染が広まるパンデミックになりつつあった。ヒトはパンデミックとスタンピードで自滅に向かおうとしていた。

しかしヒトの滅亡はキメラ自身にとっても大きな問題である。キメラは宿主があつてこそ生存できる。宿主のヒトが絶滅すれば自分たちもこの世で生き続けることはできないのであった。

そして創造主もヒトの滅亡を望んでいなかった。彼はヒトが自然環境を破壊し、生態系を乱すことを苦々しく思っていたが、同時に他の生き物が持っていない知能と倫理観で地球を守る任務をヒトに託するつもりであった。

そのために創造主は地球から戻ってきたキメラの傷んだ遺伝子を治癒し、ギャラクシーの変異種ネオ・ギャラクシーを創り出した。その時彼はネオ・ギャラクシーに新たな役割を付け加えた。

(続く)

荒葉一也

(From an ordinary citizen in the cloud)

前節まで：<http://ocininitiative.maedal.jp/EastOfNakbaJapanese.html>